

事例⑪ キャリア教育（自校の教育活動の見直し）

小学校

中学校

高等学校

★ポイント

○キャリア教育の視点から「育てたい子ども像」を話し合うことで、本校の教育目標及び重点課題を共有し、学校の特色を生かした教育活動に取り組む。

○学年や教科等における取組について報告し合い、「児童生徒の成長」と「教育活動の取組」について評価し、改善につなげる。

■関連する視点：視点3－問題の発見と共有

研修の計画

◇ 目 的

キャリア教育の意義や位置付け等について理解し、本校におけるキャリア教育の目標、育てたい能力や態度、指導場面等について、協議を通して共通理解を図る。

◇ 所要時間 : 約 65 分

◇ 方法・形態：ワークショップ

◇ 対象者 : 全職員

◇ 展 開

内容	概要及び留意点	資料
1 キャリア教育についての理解 (10分)	・担当者は、キャリア教育の目標及び実践上の留意点、自校における取組の方針(目標・計画)について説明する。	・参考資料
2 児童生徒の実態及び指導の状況の確認 (10分)	・「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組(例)」を参考に、自校における児童生徒の実態及び指導の状況について確認する。	
3 学校課題や重点目標の確認 (5分)	・自校の重点目標に位置付けたり、学校課題として取り組んでいる指導内容のうち、キャリア教育の視点から特に重要であると考える内容をピックアップする。	
4 育てたい能力・態度や教育活動の広がり(ワークショップ) (20分)	・3でピックアップした内容の中から、班(学年)で話し合っ一つを選び、以下の手順に従って「育てたい能力・態度」や「学習活動」の広がりを図に表す。 ① 「能力・態度」や「学習(活動)」を付箋に書く。 ② 考えを出し合い、ワークシートに付箋を貼る。 ③ 全体を俯瞰し、感想や気づきを発表する。 ④ 評価項目例(資料)を参考に評価する。 ⑤ 付箋を整理し、構想する際の留意点や工夫、改善点を書き加えるなどしてまとめる。	・付箋 ・ワークシート(A3 版用紙) ・資料
5 情報交換 (15分)	・4で作成した「育てたい能力・態度や教育活動の広がり」について発表し、他班(学年)の取組(計画)についての情報を共有するとともに、学校課題との関連や指導の重点等を確認する。	・振り返りカード
6 まとめ (5分)	・今年度の予定(推進計画)を説明し、○月○日の研修会において、各学年のキャリア教育の推進状況(取組、成果や課題)についての情報交換を行うことを確認する。	

◇ 評 価

キャリア教育は、社会で自立的に生きるために必要な資質・能力の育成を目指す教育活動であることを理解し、教科や学年のつながりを意識して、「本校の特色を生かした教育活動」について考え、理解を深めることができたか。

本校におけるキャリア教育推進の構想

重点目標・努力点

- ・進んで働き、最後までやり遂げ
- ・友だちと仲よく協力合う子

総合
「作物の育ちと関係」
図表・イラスト・文章等
情報収集能力 コミュニケーション能力

家庭科
「野菜の調理の仕方」を調べよう
情報活用能力
選択能力

理科 5年
育ち方を観察しよう
【肥料の性質、環境変化】

国語 6年
収穫祭と計画はう
意見発表能力

総合的な学習の時間 「収穫祭をしよう」
作物を育て収穫して、地域の人々に紹介する。
(全学年、5月～10月)
調べ、育てる
まじりの

相手の立場に立つ

総合
「収穫祭」
他の
園児
（保護者）

相手の話をよく聞き取りながら聞く
自分の考えを相手にしかり伝える能力
自分の考え思いを伝える能力

自分の役割について心に調える。
友利 6年
「ほげうさぎ」
計画実行能力、コミュニケーション能力
友達と協力し合う能力

図画科
「お花の紙芝居」
伝達能力
コミュニケーション能力

音楽科
「野菜の音楽を作ろう」
表現力

から、図にまとめて、体としての取組が見えらる。
活動内容を工夫する必要が有る。
他者の意見を理解する。
話し合いの場面がある中で、他者へ意見を述べたりお互いの決定でその場を高められること。
作物を育てる活動を通し、農家への苦勞に触れ、食の大切さを学ぶ。

資料 【教育活動や指導に関する評価】

☐ それぞれの教育活動のねらいが明確になっているか。

☐ 児童生徒の発達を支援する観点に立って、教科、道徳、総合的な学習の時間の取組が、有機的に関連付けられているか。

☐ 学級や学年だけでの取組になってはいないか。

- ・話し合いの場面が多いので、他者の意見に耳を傾けながら自己決定できる能力を高められるとよい。
- ・作物を育てる活動を通して、農家への敬意に育ち、食

- ☐それぞれの教育活動のねらいが明確になっているか。
- ☐児童生徒の発達を支援する観点に立って、教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間の取組が、有機的に関連付けられているか。
- ☐学級や学年だけの取組になってはいないか。
- ☐実社会とのつながりを意識させる場面はあるか。
- ☐児童生徒にとって意義ある学習や活動になっているか。
- ☐充実感や達成感、自信や意欲につながっているか。
- ☐その後の学習や生活に生かされているか。
- ☐日常的なかかわりや対話を通して、児童生徒への理解に努め、児童生徒に自己や成長への気付きを促しているか。
- ☐生活や学習の中で児童生徒が選択決定できるよう、指導・支援をしているか。（経験を積ませているか）

- ・中核となる学習や活動が明確になることで、子どもたちの将来につながるような視点をもって、各学年で体験させたいことや指導すべきこともみえてきました。
- ・各学年の子どもの実態や学習内容について、常に情報交換しながら取り組んでいくことが大切だと思いました。

●時間を短縮したいときは・・・各自が参考資料を読んでおく。

事前に、キャリア教育に関する参考資料や本校の計画等を職員に配布し、研修会までに各自で確認しておくこと(頁・内容等)を指示する。

- ・ 国立教育政策研究所「キャリア教育推進のために（小・中・高等学校）」平成 21 年
- ・ 栃木県総合教育センター「キャリア教育に関する参考資料（中・高等学校）」平成 19 年
- ・ 栃木県総合教育センター「キャリア教育に関する参考資料（小学校）」平成 20 年